

知能情報工学演習I 第7回(後半第1回)

岩村雅一

masa@cs.osakafu-u.ac.jp

後半の予定

7. 5月29日 プログラミング環境(テキスト1,2章)
8. 6月5日 変数とデータ型(3章)、演算子(4章)
9. 6月12日 コンソール入出力(6章)、配列(3章)、
数学処理の標準ライブラリ(11章)
10. 6月19日 制御文1(テキスト5章)
11. 6月26日* 制御文2(テキスト5章)
12. 7月10日 関数1(テキスト7章)、プリプロセッサ
(テキスト10章)
13. 7月17日* 応用プログラム

授業のウェブページ

- 授業で用いたプレゼン資料や課題はウェブページで公開する

<http://imlab.jp/~masa/class/>

本日のメニュー

- プログラム作成→実行
- Cのプログラムの基本
- 文字列の表示
- 変数
- コンパイラの使い方

プログラム作成→実行の流れ

1. プログラムの作成
2. コンパイル
3. 実行

1. プログラムの作成

- 次のプログラムを打ち込んで、smp1.cという名前で保存しましょう(テキストのP.22)

```
#include <stdio.h>
    (改行だけ入力する)
int main(void)
{
    printf("Hello¥n");
    (改行だけ入力する)
    return 0;
} (空白を入れる)
```

2. コンパイル

- C言語のプログラムはそのままでは実行することができない
 - コンピュータが実行できるように変換が必要
 - コンパイラ
- この授業ではgccと呼ばれるコンパイラを利用
 - Windowsでも、UNIXともにフリーで使える

2. コンパイル

3. 実行

- 打ち込んだプログラム(smp1.c)をgccでコンパイルする(テキストのP.11)
 1. gcc smp1.cと打ち、コンパイルする
 2. lsでa.outができていることを確認する
 3. a.outと打ってプログラムを実行する

Cのプログラムの基本1

■ プログラム

```
#include <stdio.h>
```

← 用意された関数(標準関数)を使うときに必要

```
int main(void)
```

← main関数は必ず作成する

```
{  
    printf("Hello¥n");
```

{ }で囲まれた部分が関数の中身

```
    return 0;
```

← main関数の最後に付ける

```
}
```

Cのプログラムの基本2

■ プログラム

```
#include <stdio.h>
```

```
int main(void)
```

```
{
```

```
    printf("Hello¥n"); ← 文は「;」で終わる
```

```
    return 0; ← 文は「;」で終わる
```

```
}
```

文字列の表示

■ プログラム

```
#include <stdio.h>
```

```
int main(void)
```

```
{
```

```
printf("Hello¥n");
```

文字列を表示



文字列



```
return 0;
```

```
}
```

文字列の表示

■ 文字列

□ `printf("Hello¥n");`

H	e	l	l	o	¥n
---	---	---	---	---	----

↖ 改行

□ `printf("Hi!¥nHow are you?¥n");`

H	i	!	¥n	H	o	w		a	r	e		y	o	u	?	¥n
---	---	---	----	---	---	---	--	---	---	---	--	---	---	---	---	----

↖ 改行

↖ 改行

変数

- プログラム内で数字や文字を記憶するため、**変数**が利用される
 - 変数は覚える値の種類によって異なる
 - ➡ いくつかの種類(**型**)が用意されている
 - 使う変数は最初に**宣言**しなくてはいけない

サンプルプログラム

```
#include <stdio.h>
```

```
int main(void){
```

```
char a1, a2, a3;
```

型

```
int b1, b2, b3;
```

変数

```
a1 = 6;
```

```
a2 = 2;
```

```
b1 = 192;
```

```
b2 = 168;
```

```
a3 = a1 + a2;
```

```
b3 = b1 + b2;
```

```
printf("a1=%d a2=%d\n", a1, a2);
```

```
printf("b1=%d b2=%d\n", b1, b2);
```

```
printf("a1+a2=%d\n", a3);
```

```
printf("b1+b2=%d\n", b3);
```

```
return(0);
```

```
}
```

変数の解説

- char, intは整数を覚える
- 小数を覚える変数もある
- charとintは覚えられる数の大きさに違いがある(テキストP.51)
 - char: -128~127
 - int: -2147483648~ 2147483647

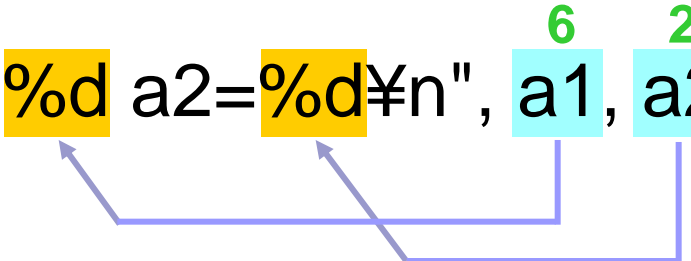
変数の名前の付け方のルール (テキストP.37)

- 名前に使える文字
 - アルファベット(大文字、小文字)
 - 数字
 - アンダーバー(_)
- 名前の最初はアルファベットかアンダーバー
- 名前の長さは31文字まで
- 予約語(あらかじめCで使う名前)は使用不可
- 大文字と小文字は区別される

文字列の表示

■ 文字列

□ `printf("a1=%d a2=%d¥n", a1, a2);`



□ 出力

a	1	=	6		a	2	=	2	¥n
---	---	---	---	--	---	---	---	---	----

↖ 改行

実行ファイルの名前を変える

- gcc (Cのプログラム)とすると実行ファイルが a.outになってしまう
 - 実行ファイル名を変えたいとき
 - gcc -o (実行ファイル名) (Cのプログラム)
 - gcc -o smp1 smp1.cとしてコンパイルしてみよう
 - 実行ファイルがsmp1としてできるので、実行してみよう

gccを使う上での注意点

- Cのプログラムは.cとしなくてはいけない

プログラムの間違い

- プログラムの間違いには大きく2つある

- 文法の違い

- 文字の打ち間違い
 - 関数の使い方が間違っている

- ⇒ コンパイラがエラー/警告を出す

- 計算方法の違い

- 問題を解く解法が間違っている(例:「5+3」→「5-3」)
 - 希望の動作をするようプログラムが書かれていない

- ⇒ プログラムをテストして判断する

コンパイラのエラー/警告

- エラーは直さないとプログラムが動かない
- 警告は無視してもプログラムは動作する
ただし、なぜ警告が出たかは把握すること

エラーの例

- printfをprintとした場合

smp1.c: undefined reference to `print'

- mainをmaniと打ち間違えた場合

Undefined reference to `main'

- printf()の“を忘れた場合

smp1.c: In function `main':

smp1.c:5: `Hello' undeclared (first use in function)

⋮

課題

- 変数 a にあながた生まれた月、変数 b に生まれた日を代入して、 $a+b$ と $a-b$ を計算して出力するプログラムを作成しなさい
- ただし、レポートはLaTeXで作成し、DVIファイル(.dvi)とCのソース(.c)を提出すること
 - レポートには名前、学籍番号、授業に対するコメント(任意)を書く
 - Cのソースは`¥begin{verbatim}`と`¥end{verbatim}`で囲む(5月1日の資料の6.1を参照)